滋賀県立大学は、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現に向けて、ＳＤＧｓ地域化の拠点となります。

ＳＤＧｓ達成に向けた世界の動きや成果

ＳＤＧｓに地域の叡智と実践を統合する

教育	県大生の海外留学（海外での教育）
研究	世界の様々な研究成果の理解と普及

教育	海外留学生の受入れ（地域での教育）
研究	ローカルな実践から得られた知見の発信
地域貢献	災害復興や途上国への支援活動

教育	地域教育プログラムでの地域人による支援
研究	地域課題への取組実例・成果の蓄積

教育	公開講座・出前講座による地域教育
研究	地域課題をテーマとした研究活動
地域貢献	近江楽座やゼミ活動による地域貢献

世界共通の目標であるＳＤＧｓを地域に根付かせる

滋賀の暮らしに根づく持続可能な叡智や実践

滋賀の地とSDGsの親和性の高さ

古くから滋賀の地は琵琶湖を大切にすることをはじめ、持続可能な社会づくりに取り組んできました。

例えば、

①閉鎖水域である琵琶湖では古来から待ちの漁法で採り尽くさない漁業が営まれ、健全な琵琶湖を取り戻すため「石けん運動」や「環境こだわり農業」を行うなど、環境保全に熱心に取り組んできた

②中世以降、全国で活躍した近江商人の「三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）」の精神が息づいている

③戦後日本の「障害福祉の父」と呼ばれる糸賀一雄氏の「この子らを世の光に」という思想を大切にし先進的な福祉に取り組んできた

そして、2017 年 1 月滋賀県は全国に先駆けてＳＤＧｓを県政に取り込むことを宣言しました。さらに、2019 年 7 月、ＳＤＧｓの達成に向け優れた取組を進める「ＳＤＧｓ未来都市」に選定されました。

今も、この経済、社会、環境の調和につながる考えが滋賀の地に根付き、持続可能な新しい豊かさをＳＤＧｓで具現化すべく各地で様々な活動が実践されています。

待ちの漁法、琵琶湖独特のエリ漁

滋賀は環境こだわり農業日本一

淡海子ども食堂の活動

琵琶湖での水草除去活動

国連アカデミックインパクトへの参加

国連アカデミックインパクトは 2009 年に立ち上げられた国連と高等教育機関を結びつけるグローバルな取組。参加大学には「人権、識字能力、持続可能性、紛争解決」の分野の普遍的な 10 の原則のうち 1 つ以上の原則を積極的にサポートすることが求められます。

滋賀県立大学は、2019 年 3 月に国連アカデミックインパクトに参加し、原則 5、原則 9、原則 10 をはじめとする全分野に取り組んでいます。

原則 5：世界各国の高等教育制度において、能力を育成する

原則 9：持続可能性を推進する

原則 10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

＜ お問い合わせ先 ＞

滋賀県立大学地域共生センター

〒522-8533　彦根市八坂町 2500

TEL：0749-28-9851

FAX：0749-28-0220

E-mail：chiiki@office.usp.ac.jp

ホームページ：www//ccdp.usp.jp/

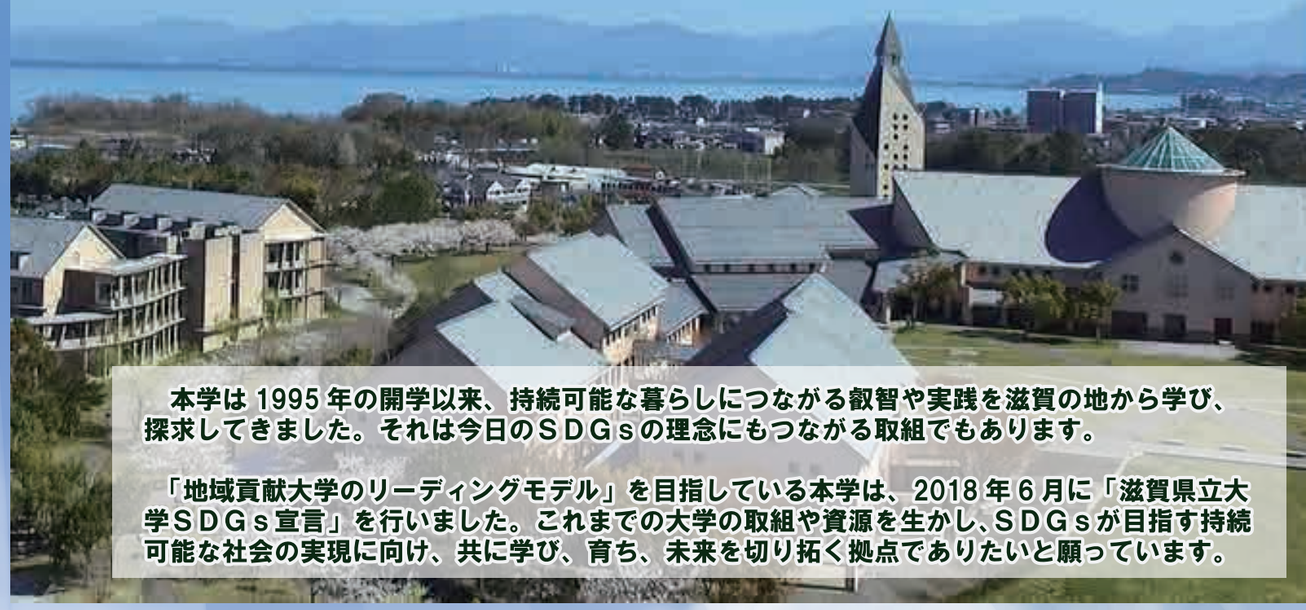
Facebook：https://www.facebook.com/biwako.coc/

SDGsの地域化拠点を目指して

滋賀県立大学 THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE × SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

キャンパスは琵琶湖。　テキストは人間。

地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する



本学は 1995 年の開学以来、持続可能な暮らしにつながる叡智や実践を滋賀の地から学び、探求してきました。それは今日のＳＤＧｓの理念にもつながる取組でもあります。

「地域貢献大学のリーディングモデル」を目指している本学は、2018 年 6 月に「滋賀県立大学ＳＤＧｓ宣言」を行いました。これまでの大学の取組や資源を生かし、ＳＤＧｓが目指す持続可能な社会の実現に向け、共に学び、育ち、未来を切り拓く拠点でありたいと願っています。

滋賀県立大学SDGs宣言（2018 年 6 月）

ＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals）：持続可能な開発目標

2015 年の国連サミットで採択された世界共通の目標。限られた地球上の資源を使い果たすことなく継続的に利用し、誰一人取り残すことなく、環境、社会、経済における様々な課題の関係性にも配慮して、2030 年までに達成すべき 17 の目標と 169 のターゲットが設定されている。

地域教育プログラム

本学では、地域課題に応える「未来志向の変革力を身につけた人材」を育成するため、教員や地域人※の方による地域教育プログラムを実施しています。高い専門性を身につけ、俯瞰的に物事を見る能力はもちろんのこと、地域での実践を通して現実に起こっている諸問題に創造的に取り組み、変革する能力と態度を養っています。

※地域人：地域活動の実践者で本学の地域教育プログラム履修者に対して指導・助言等を行う方々

地域共生論,300人規模のアクティブラーニング

全学生が学ぶ地域基礎科目「地域共生論」

1年次の全学部学生対象の必修講義で、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部の約600人の学生が学部の枠を越えて一緒に学びます。

各学部から提供されるテーマについて学生がグループワークを通じ、ＳＤＧｓの視点を交えて考えるとともに、他者を理解し、共感と豊かな対話を可能とするコミュニケーション力を養成します。

地域教育科目におけるワークショップ

近江楽士（地域学）副専攻

実社会に必要な様々なノウハウを地域から学び、主体的に考え、行動し、課題を解決するための学びを提供する副専攻カリキュラム。

修了者には、「近江楽士（コミュニティ・ネットワーカーまたはソーシャル・アントレプレナー）」の称号が付与されます。

近江環人地域再生学座受講生の写真

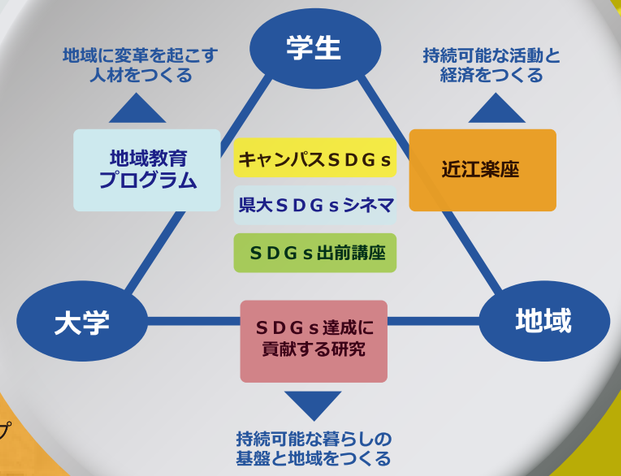
近江環人地域再生学座

本学の大学院生や社会人を対象に、地域再生のリーダーとなる資質を有した人材「近江環人（コミュニティ・アーキテクト）」を育成する副専攻カリキュラム。

夏期集中講義「SDGsと滋賀のグローカル・イノベーション」

琵琶湖を守り、環境・社会・経済の調和を大切にする滋賀の暮らしを基に県内複数大学の学生が共にＳＤＧｓを学ぶ単位互換科目。

滋賀県立大学のSDGsへの取組



SDGsの達成に貢献する地域課題研究

本学の多様な知的資源を生かし、地域課題の解決に向けた研究に積極的に取り組み、その成果を発信することで、「地（知）の拠点」としての役割を果たし、ＳＤＧｓの達成に貢献し、持続可能な共生社会の実現に寄与します。

〇地域課題の研究例（平成30年度）
- 持続可能な地域と福祉に向けて、高齢化・人口減少の進行が予想される地域における他出家族の生活サポート実態の解明（竜王町）
- 外国人の子どもの保育・教育環境の改善（愛荘町）
- 持続可能な地域創生のためのパートナーシップの研究：留学生による地域資源発掘プロジェクト（近江八幡市、甲賀市、長浜市）

竜王町における研究成果発表会

留学生が地元の方々と一緒に活動

若者が集い交流するキャンパスSDGsびわこ大会

2019年3月16日、県内外から学生を中心に小中高生を含む若者、企業や地域の方々など約360名が参加するＳＤＧｓ学生大会を本学で開催しました。

同年11月16日には「キャンパスＳＤＧｓびわ湖大会」として引き続き学生大会を開催し、世代や立場を越えて様々な人が出合い、対話し、行動するＳＤＧｓの交流・発信の拠点としての役割を果たしていきます。

ＳＤＧｓの目標達成に向けて県内外から次世代を担う数多くの大学生、小中高生等が参加し交流

滋賀県知事の基調講演や各団体の代表者のパネルディスカッション

学生や社会人の活動を紹介するポスターセッションやＳＤＧｓに関連するテーマのワークショップ

近江楽座

近江楽座は、地域貢献を目的とする学生主体の地域活動を全学的に支援する教育プログラム。地域の方々と一緒に活動することで学内では学べないことを体験します。

2004年度からスタートし、2019年度は23のプロジェクトに延べ673人のメンバーが県内を中心に県外や海外でも、まちづくり、古民家再生、環境保全、子ども支援、障害者・高齢者福祉、健康推進、農業再生、被災地支援など様々な分野で活動しています。

今後もこれまで培ってきたノウハウや地域とのつながりを継承し、地域の皆さんと共に課題に向き合い、考え学び実行し、ＳＤＧｓの目指す持続可能な社会づくりに取り組んでいきます。

政所茶レン茶 ″ー

室町期にまで遡る歴史ある茶所である東近江市の政所において、学生自らが有機栽培で在来の茶を生産・販売することで、過疎高齢化に悩む地域の活性化にチャレンジしています。

あかりんちゅ

人口当たりの寺院数が日本一多い滋賀県。その寺院等でやむを得ず廃棄されるろうそく（残ろう）を回収して再利用することで、キャンドルナイトなどエコでスローな夜を演出します。

タクロバン復興支援プロジェクト

活動のフィールドをフィリピンの被災地タクロバンに拡大し、住民目線での復興を目指し、地域の人々と共に被災状況の調査、建物の建設を通してコミュニティの再建に取り組んでいます。

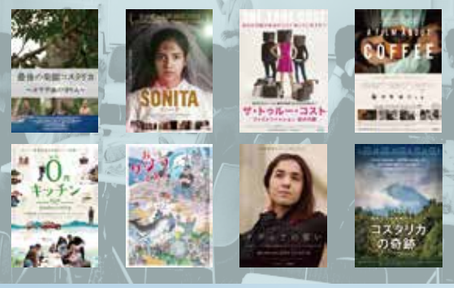
とよさと快蔵プロジェクト

豊郷町の空き家を学生の手で改修してシェアハウスやイベントスペース、バーなどに生まれ変わらせ、まちに新しい風を吹かせています。
大学SDGs ACTION! AWARDS 2019において、スタディツアー
＜下川町 ×JAL＞賞を受賞しました。

県大SDGsシネマ

学生、教員、地域の方々が共にＳＤＧｓに関連する映画を鑑賞します。上映後に参加者が感想や意見を共有することで課題を自分ゴト化して身近なアクションを考えるきっかけを提供しています。

〇これまでに上映した作品（一部）



SDGs出前講座＆落語

県内外の行政機関、教育機関、企業等からの要望を受けて、学内教職員を講師として派遣し、講演やワークショップを実施しています。

2019年度からはＳＤＧｓのテーマに沿った課題解決ワークショップを開催し、ＳＤＧｓの視点を持ち地域の中心となって活躍する人材を育成します。
また、ＳＤＧｓ落語では笑いを通してＳＤＧｓを自分ゴトとして考えるきっかけづくりをしています。

多くの方々にＳＤＧｓを伝えます

天満家真念さんのＳＤＧｓ落語